

令和5年度（2023年度）日貫保育所拠点事業報告

《日貫保育所》

I. 事業総括

＜保育方針＞

- 一人ひとりの子どもの育ちを支えるように努めました。
(現在をもっともよく生き望ましい力の基礎を培うことを目指しました)
- 保護者の子育てを支えるよう努めました。
(保護者の意向を受け止め、子どもと保護者の安定した関係に配慮した援助を目指しました)
- 子どもと子育てにやさしい地域を作るよう努めました。
(地域とのふれあいや連携を図ることを目指しました)

II. 事業目標に対する評価

1. 利用者サービスの充実

KGI(最重要目標指標)	指標の名称	指標値	実績
	非認知的能力の育成	—	—

保育所保育指針に基づき、子どもたちが将来、社会の中で自分らしく生きていくことが出来るよう保育を進めてきました。これまでの「健康」「人間関係」「環境」「言語」「表現」の各領域に沿って、発達に応じた関わりを行い、養護と教育を一体的に展開してきました。子ども達が安心して過ごせるよう、愛情ある関わりの中で自己肯定感が培われるような言葉かけや支援を心掛けました。また、指針に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を最終目標とし計画に沿って進めてきました。

2. 地域社会との関係性強化

KGI(最重要目標指標)	指標の名称	指標値	実績
	地域社会との関係性強化	—	—

地域に育まれる保育所として、地域の方々との交流を深め、日貫保育所でなければ体験できない貴重な経験の場を子どもたちに提供していこうと考えながら保育を進めてきました。地域との行事を進め文化や伝統を知り体験することの大切さを学ぶ機会作りを引き続き取り組んでまいります。

3. 生産性の向上

KGI(最重要目標指標)	指標の名称	指標値	実績
	人時生産性	1.93 千円	2.10 千円
	労働生産性	3,691 千円	3,945 千円

付加価値額は目標値を上回りました。人時生産性、労働生産性とも指標値をクリアしました。

Ⅲ. 計画事業の総括

1. サービス事業への取り組み

小規模の保育所ですが、職員との連携性を持ち、地域との関係を密にしながら、保育所全体で一人ひとりの子ども達や保護者に常に寄り添う保育を進めてきました。乳児期の愛着形成の重要な時期に、ゆったりと安心感のある関わりを常に行い、愛情の中で自己肯定感が培われるような言葉掛けや支援を行いました。常に職員間で話し合い、子どもの過ごしやすい生活の流れや環境設定を考えながら子どもたちの成長を支えるように努めました。自然に触れ合いながらの遊びを多く取り入れ、家庭ではできない経験を提供し、豊かな感情、好奇心、思考力、探求心が培われるような活動を行ってきました。また、食への取り組みや普段の保育の様子等を保護者や地域の方々にICTシステムやお便りで発信し情報を共有することで、子どもたちの成長や喜びを身近で感じていただけるよう努めました。支援の必要な子どもたちや保護者に関しては、関係機関と連携し合い、子どもたちが安心して過ごすことができるような関係性を築きました。

2. 人材育成への取り組み

勤務体制を整え、必要な研修には参加できるよう配慮し、できるだけ多くの学びとなるように取り組んできました。研修で得た事を園内研修や資料配布を行い、保育所全体の学びとなるように努めました。子どもたちに関することを保育士、調理師など職種に関係なく話し合い、改善を行うことで自分自身を振り返り、保育に活かすことができました。正規職員が1名であるため負担が大きくなりますが、その中での学びは多く、研修を活かしながら能力を高めていくことができました。また、普段から職員とのコミュニケーションを図り、声を掛け合いながら働きやすい環境を整えるよう努めました。絶対ルールを基盤として職場全体の共通意識を持って業務に取り組みました。

3. 地域との関係強化への取組み

地域との繋がりを深める為、交流計画を立て実行してきました。奉仕作業や保育所行事での保護者を含めての交流や地域行事への参加により、地域との繋がりがより一層深まったと思っております。昨年度から保育所・小学校・地域合同の運動会も開催されました。月に一回保育所・小学校・地域での話し合いも行われ、保育所のことを知っていただける良い機会となっております。これからも地域との繋がりを保ち評価いただけるよう取り組んでまいります。

4. 生産性向上への取組み

ICT「はいチーズ」システムを有効に活用して、業務改善に努めてまいりました。事務作業の効率化を図り、間接的業務の負担を減らし、子ども達との直接的な保育時間を確保できるように努めました。ICTの苦手な職員もおりますが、積極的に取り組む姿勢が窺われました。

5. 施設整備への取組み

事業計画に掲げた施設整備事業は、実施時期がずれ込んだものもありましたが、すべて実施することができました。計画外や物価の高騰により予定通りとならない設備整備もありましたが、子どもたちの日々の安全確保や職員の業務遂行に支障がでない

よう実施しました。

令和5年度に実施した個別の事業の詳細及び成果等は以下の通りです。

【サービス事業】

1. 利用者（入所者）状況

(1) 利用率・稼働率

定員数	計画数	実績	利用率・稼働 (KPI)
20名	12名	13名	65%

(2) 利用者構成状況

年齢別クラス	計画数	実績数	差異
0歳児	2名	2名	－
1歳児	3名	4名	1名
2歳児	1名	1名	－
3歳児	3名	3名	－
4歳児	2名	2名	－
5歳児	1名	1名	－
計	12名	13名	1名

2. 実施サービス

計画上の事業及び実施した内容・成果等
<p><養護></p> <p>生命の保持</p> <ul style="list-style-type: none"> 各年齢に応じた環境を整え、発達年齢に適した支援を行いました。乳児期は一人ひとりとの関わりを大事にし、愛着形成の大切な時期であるため、0歳児は同じ職員が関わることで安定して生活できるよう配慮しました。0歳児の生活リズムと1、2歳児の発達段階を踏まえた支援を実施しました。 幼児は一人ひとりの思いを受け止め、生活リズムによる年齢に合った環境を整えました。5歳児は卒園に向けた活動を行い、他のクラスは一人ひとりに合った進級に向けた働きかけを行いながら、基本的な生活環境に取り組みました。幼児には給食の時間マスク着用の依頼等、安心安全に取り組めるよう生活改善を整えました。 <p>情緒の安定</p> <ul style="list-style-type: none"> 乳児期の愛着形成の重要な時期にゆったりと安心感のある関わりを常に行って来ました。幼児は愛情ある関わりの中で愛されることを感じ取り、自己肯定感が培われるような言葉かけや支援を行いました。 子ども一人ひとりに職員が丁寧に関わることで、新入児も早く生活に慣れ、進級児もスムーズに生活することが出来ました。職員の異動がありましたが、しっかりと気持ちを受け止める関わりの中で信頼関係を築くことが出来ました。また、個別支援の必要な子どもに対しても丁寧に対応するよう努めることが出来ました。後半に0歳児の入所がありましたが、その都度連携を取り、職員間でより丁寧な関わりを行うことが出来ました。子ども達が不安定にならないよ

う一人ひとりを見つめ肯定的な受け止めを行いました。

<教育>

健康

- ・それぞれの年齢に適した活動や発達を考慮した運動遊びを行うことで、体力や体幹を身につけられるよう進めました。乳児期は発達に応じた動きや運動を体験出来るような活動を取り入れました。
- ・幼児期は様々な運動能力を高めていく活動を取り入れ、意欲的に取り組む姿勢や挑戦する気持ちを持って頑張ろうとする取り組みを大切にしました。その中で年長児は、専門講師による運動遊びを行い、体幹を養うための体操等も取り入れてきました。また、元気な体作り計画表に基づき年間を通して様々な運動遊びを保育に取り入れることに努めました。

食育活動

- ・食に対する興味や関心を高め、楽しい雰囲気の中で好き嫌いなく何でも食べられることを進めました。しっかりと体を動かすことで、食欲が増し、食べる意欲を育ててきました。また季節感が感じられるような食材の提供やその食材についての話を聞くことで食べるのが楽しくなるような食事の提供に努めました。
- ・畑での野菜作りや収穫で感じた喜び、地域での季節毎の食育体験行事への参加により、食に興味を持たせ食べる意欲に繋げていきました。
- ・乳児期は安心する雰囲気の中で食べる意欲を大切にしてきました。成長に合った机や椅子を使用することで落ちついて食事出来るようになりました。
- ・幼児期は5歳児を中心に、姿勢を意識して食事をする事が出来るようになり、成長を感じる事が出来ました。食事に集中する時と、楽しい雰囲気です事に向かう時と時間を決めて取り組むことで、食事が有意義なものとなっています。調理師との連携を図り、日々の声掛けの繰り返しや、体幹を鍛えることで正しい姿勢を知らせながら今後も引き続き支援を続けていきます。

人間関係

- ・特定の大人との深い関わりによる愛着形成を確立し人との繋がりを大切にしました。一人ひとりを認め、前向きな言葉かけや肯定的な関わりを行うことで自己肯定感の確立に努めました。また、自分で考え行動出来るよう子ども主体の遊びを取り入れ、社会性の確立と自立心の育成に努めました。
- ・乳児期は不安な子どもには抱っこなどにより安心を感じられるように努め、幼児期は(4、5歳児)自分で考え判断出来るような声掛けや配慮を行いました。安心して生活出来る環境作りを工夫し、職員間で情報交換や連携をとり、子ども一人ひとりが自己を発揮できるよう努めました。
- ・少人数により、多くの人との関わりには限りがありますが、異年齢での交流により、優しさを持つことができました。

環境

- ・安心安全に過ごせる環境や社会事象に興味関心を持ち、好奇心を高める環境の提供に努めました。安心感に守られながら十分な探索活動を経験し、社会や自

- 然事象に興味関心を持ち視野が広がっていけるよう努めました。
- ・乳児は行動範囲が広くなり、危険な場面に注意しながら探索行動を見守り、発見に共感しました。
 - ・幼児は自然事象に興味関心が持てるよう、調べたり試したり出来るような図鑑や用具等を準備しました。地域の方々から昆虫や草花をいただき観察することで新たな発見が得られました。

言語

- ・喃語時期から語りかけを通して、周りの人との関わりを深め、言葉への獲得へと繋げていきました。言葉でのやり取りが安心して出来るように保育者は聴くことや待つことを心掛け、一人ひとりに適した援助を行うよう努めました。
- ・乳児期は言葉のやり取りに気を付け、言葉の気になる子どもには関係機関と情報共有し連携を取りました。
- ・幼児は遊びや活動の中で言葉を使った遊びを実施することで、子供同士が楽しみながら言葉や文字、数への興味関心を引き出す工夫をしました。講師によるわらべうた遊びでは、繰り返しのリズムの言葉遊びにより、温かな雰囲気の中模倣しながら楽しむことが出来ました。おはなし会では、講師から、子どもたちがお話に興味関心を持ち参加できるようになったと評価いただき成長を感じました。
- ・日々、応答的な関わりや言葉での伝え合いを大切に、担任が関わりを深め、無理強いのない声掛けを繰り返すことで、言葉での伝え合いがスムーズになりました。幼児は言葉のやり取りから数や文字に興味を持てるように取り組みました。

表現

- ・乳児期は保育者の関わりが重要なため、保育者自身も表現豊かに関わることを心掛け、幼児期は自由に表現出来るよう常に肯定的な関わりを持つよう努めました。リトミック遊びを多く取り入れ身体的表現を自分たちで楽しみました。リズム遊びを多く取り入れ、身体全体の感覚に刺激を与えるよう努めました。常に前向きな関わり方を目指し表現する喜びを感じられるよう努めました。
- ・講師によるアートデーでは、乳児と幼児と一緒に参加できる時間を作り、それぞれにあった製作活動を楽しみました。五感を刺激する活動を取り入れ、豊かな感性を育みながら表現する楽しさを感じる事が出来ました。担任は講師との関係が深まり密な相談もでき、自由な表現が出来るようになりました。

<災害時の備え>

- ・避難訓練計画に沿って毎月実施できました。実際に避難指示を想定し、日貫小学校へ避難する訓練を実施しました。協力可能な保護者に電話連絡をし、円滑に避難することが出来ました。実施後にその訓練についての気づきや反省を職員で共有し次に繋げていきました。
- ・備蓄の管理を行いました。

<p><特別保育事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援として、関係機関と協力体制を敷き支援を進めてまいりました。個人懇談も随時行い、保護者との信頼関係を築いてきました。
<p><その他の行事></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域行事や年間の恒例行事を計画に沿って行いました。運動会は小学校と地域と合同で行いました。様々な方に保育所の様子や園児の姿を見ていただきました。また、保育所の子どもたちも普段関わっていない方との触れ合いを通し、喜びを感じることができました。 ・保護者参加の行事では、子どもたちの成長や保育所での生き生きとした表情を身近で見て頂くことができました。成長を共に喜び合える経験は職員にとっても嬉しいことです。

3. 人員体制の状況（常勤換算）

職 種	計 画		実 績		差 異	
	正職	非正職	正職	非正職	正職	非正職
所長	1		1			
保育士	1	6(3.2)	1	7(3.4)		(+0.2)
保育補助						
調理員		2(1.1)		2(1.1)		
計	2	8(4.3)	2	9(4.5)		(+0.2)

- ・パート職員が1名増
- ・保育士定数に不足が生じることなく業務に当たることが出来ました。

【人財育成事業】

① 事業所内研修（石見さくら会保育研究会）

実施した研修	対象者	参加者数	実施した内容・成果等
調理担当者研修	栄養士 調理師	1名	誤飲誤嚥に関することや新しいメニューについて共有しました。
救急法講習会	全職員	4名	プール時期に必要な救急法について学びました。救急車到着までの間に何をすべきかを学びました。
防犯訓練	全職員	3名	咄嗟の判断や連携の重要性を学びました。
人権・権利擁護研修	全職員	全職員	職員に人権についてのアンケートを行ってもらい、自身の振り返りをし意識統一を行いました。職場の質の向上に役立てていきます。
年齢別（3ヶ月に1回）、主任（隔月）、調理師（4ヶ月に1回）の話し合い	担当者	2名	各園の情報交換を行い、日々の保育の質の向上に努めました。

② 事業所外研修（外部派遣研修）

実施した研修	対象者	参加者	実施した内容・成果等
邑智郡保育研究会			
邑智郡保育研究会総会	全職員	1名	総会のみ。
郡保育研究大会「本当に子どもを大切にすることでんこと」	全職員	2名	主体性を大切にする保育について学びました。子どもたちのつぶやきを聞き逃さないようにしていきます。
郡調理担当者研修会「離乳食について・衛生管理について」	調理師	1名	使用を避ける食材についての情報共有ができ、安全な提供を心掛けていきます。
郡実技研修「心と体は大の仲良し」	全職員	1名	子どもたちにとって、楽しいリズム遊びになるように、スキルを磨くことの必要性を学びました。
島根県保育協議会・島根県社会福祉協議会(人材センター)			
島根県保育協議会総会「子どもまんなか社会～子ども主体の保育とは」	所長	1名	子どもの主体性を尊重する保育の必要性について学びました。子どもが自分らしく表現できる環境作りを目指していきます。
施設長研修会「保護者・職員とのつながりをどう育てるか」	所長	1名	職員の力を出してあげること、結果を受け止めること、誰がではなく、何が、に目を向けること等、人との向き合い方について学びました。
島根県保育研究大会	全職員	2名	・分科会参加 ・子どもの人生の支える養分を多く作っていきます。
キャリアパス管理職員コース「管理職としてのリーダーシップ・マネジメントの考え方」	所長	1名	人材育成について職員との面談実施の必要性や目標設定をし、達成に導いていく考え方について学びました。
チームリーダースキルアップ研修Ⅰ「仕事を進める中核的存在から、主体的・主導的に仕事を進めるリーダーへ」	保育士	1名	グループワークを通して、色々な人の考え方を知ることができ、広い物の見方をしていくことの大切さを改めて感じました。
チームリーダースキルアップ研修Ⅱ「マニュアル作成」「業務の標準化を職場の活性化につなげる」	保育士	1名	マニュアルの有効な活用法について学びました。保育所において必要なマニュアルを作成し実行しております。
労務管理研修（オンライン研修）	所長	1名	主な改正事項について学びました。
リスクマネジメント研修	保育士	1名	自分の言動を振り返り、今後気

「ハラスメントについて」 (オンライン研修)			を付けるポイントを学びました。相手に何かを伝える時に活かしていきます。
人権・権利擁護研修「福祉サービスにおける人権とは」(オンライン研修)	所長	1名	一人ひとりの欠かすことのできない権利を守るためには、自分自身が自覚をもって生活を送らなければならないと思いました。
町内研修・教育委員会関連・その他			
管理職研修(オンライン研修)	所長	1名	全体的な計画の編成や改善を行い、安全管理や安全に関する指導を推進していく力について学びました。
甲種防火管理研修	所長	1名	管理者としての役割を知り、日々の点検や訓練に役立てていきます。
邑南町特別支援連携協議会相談ネットワーク研修会「思春期の子ども理解」	全職員	1名	年齢に応じたの見守り方の変化や役割について学びました。
感覚統合研修「感覚統合について」(オンライン研修)	全職員	2名	感覚統合を知ることで、子どもの行動の理由を脳の機能という観点で推測、理解しながら保育に役立てていきます。
邑南町特別支援連携協議会研修会「メディアとの付き合い方」	全職員	2名	スマホの普及により、メディアを上手に使う為の正しい約束の仕方を学びました。
幼児教育施設訪問指導「特別支援教育に係る訪問指導」	全職員	3名	指導案を作成し、保育現場においての子どもたちとの関わり方についての指導を受け保育に活かしました。
保小連携・接続に係る管理職研修「保小連携・接続の必要性とその在り方について」	所長	1名	保育所と小学校との学びに対する認識の違いを感じ、より一層の交流や情報共有の必要性を感じました。
福祉サービス苦情解決研修会「福祉サービス事業所における苦情解決の取り組み」	担当者	1名	利用者の正確な思いを理解、把握し、苦情の中にある問題点が何なのか職員間で考えていきます。
STEP研修「幼児期における発達障がいのある子どもの理解及び支援」	全職員	3名	様々な発達障がいの特徴を理解し支援していきます。
子ども健康サポートネットワーク推進委員会専門職研修会「子どもの発達と	全職員	1名	子どもだけではなく、保護者の生活の質の改善も大切であり、興奮より感動を与えられるよう

メディア」			なメディアとの関わりを考えていきます。
指導者講習会「幼児期の運動遊び」	全職員	1名	遊びとしての運動の考え方や動きを経験する為の工夫について学びました。
子ども健康サポートネットワーク推進委員会専門職研修会「私たちはどう動くべきか～大切な子どもの命を守るために～」	全職員	1名	子どもを預かる保育士という仕事の重要性を学びました。

③ 事業所間研修

計画上の研修	対象者	参加者	実施した内容・成果等
マネジメント研修	所長 係長	1名	所長としての役割や行動、職員との関わり方やマネジメントについての知識を身に付けることができました。今後、職場で活かせるよう自分自身を振り返りながら職務にあたっていきます。
会計研修会	所長	1名	会計の基礎を学びました。
健康作り出前講座「仕事で傷めない身体作りのコツ」	全職員	2名	自分の体を知り、弱いところを意識しながら健康で働くことについて学びました。
労務管理研修	所長	1名	諸制度について学び、働きやすい職場を目指していきます。
ハラスメント研修 オンライン研修	係長以上	1名	自己管理と相手を尊重することで、ハラスメントの無い職場にしていきます。
調理実習	調理師	1名	レバーの下処理の仕方を学びました。
評価者研修	所長		感染症対策の為不参加。
人事評価研修	係長以上	1名	評価者が同じ認識を持って評価に向かうことが出来るよう意見を出してまとめました。

【地域との関係強化への取組み】

実施した事業	事業内容・成果等	KPI
ボランティアの積極的受入れ	<ul style="list-style-type: none"> ・おはなし会や、わらべうたなど毎月受け入れました。 ・地域のボランティアの受け入れにより、交流の場を設けました。(鮎焼き会、野草茶作り、クリスマス会) 	—

【生産性向上への取組み】

実施した事業	事業内容・成果等	KPI	KPI 実績
ICT の活用	ICT 化の導入によって、間接業務の時間短縮に取り組みました。(登降所の時間管理・睡眠チェック・健康状態チェック・身体測定表・幼児保育日誌作成・ヒヤリハット報告書・事故報告書・出席簿・個別連絡帳の記載・行事予定・3歳未満児個別経過記録・保護者への全体配信など)	<ul style="list-style-type: none"> ・事務の効率を上げる ・情報発信力を高める 	事務効率化に繋がりました。

【施設整備事業】

実施した施設整備等	実施した内容等
コンセント増設(事務室、保育室、ほふく室)	コンセント不足によるたこ足配線の改善を行いました。
園庭倉庫の設置	三輪車等の遊具を片付ける倉庫が狭く、老朽化のため、広い屋根付きの倉庫を園庭に設置いたしました。また、計画外ですが老朽化した小屋の撤去も行いました。
保育室エアコン設置	冷房機能のみのエアコンを冷暖房機能付きのエアコンに更新しました。
絵本、玩具の購入	<ul style="list-style-type: none"> ・季節や子どもの発達に合った絵本を購入しました。 ・子どもの運動機能発達や感性の成長を育む玩具を購入しました。(バランス平均台、ブロック等) ・保育に使うラジカセを購入しました。
トイレの交換工事(和式から洋式へ)	子ども用のトイレが一ヶ所しかなく不便であった為、和式を様式に更新しました。また、計画外ですが個室が狭く、事故防止の為にパーティション工事を行いました。

計画外の施設整備	実施した内容等
大人用洋式トイレのウォッシュレット取替工事	便器の上部部分の電気系統が故障した為、更新しました。
砂場の砂搬入	砂が流れ少なくなり底が見え危険と思われる為、搬入しました。
ジャングルジムの修繕	木目部分に割れ目が生じた為、修繕しました。
ファックスの更新	これまで使っていたファックスではインクカートリッジの交換が頻繁であることと、受信した書類のインクが滲んで読みにくい為、業務に支障があるため更新しました。
調理場水道蛇口交換	調理場の水道蛇口が故障し水漏れがある為、更新しました。

調理室冷蔵庫の購入	使っていた冷蔵庫は容量が小さく、調理に必要な食材の保存や分別が出来にくかったため容量の大きい冷蔵庫を購入しました。
乳児室の床の修繕	乳児室の床の一部が軋み、通ると凹みが出る為、修繕しました。
乳児室テラスの柵設置	乳児クラスの子どもが安全に遊ぶことが出来るよう、テラス部分に柵を付けました。
雨漏り修繕	トイレの雨漏りを発見した為、応急的な処置を行いました。（屋根全体のジョイント部分が錆びているため完全な修繕は出来ない。再び雨漏りが起こる可能性がある。）

【積立の状況】

(単位：千円)

積立目的	計画	実績
再建設	0	0
大規模修繕	0	500
その他	0	1,200
計	0	1,700

【感染症・災害への対応への取り組み】

- ・子ども及び職員の清潔保持に努め、アルコールや次亜塩素酸水を年間通して使用しました。また CO2 測定器や空調管理を行い、感染症予防及び拡大防止を図りました。また幼児には給食配膳時のマスク着用の依頼をし、無理のないところで安心安全に使用し生活環境を整えました。
- ・避難計画に基づき毎月避難訓練（火災、地震等）の実施を行いました。想定外の災害発生に対して職員間でマニュアルを確認し合い、非常持ち出し品や備蓄品などの確認を行いました。

IV. 苦情解決（要望含む）の結果について

令和5年度において、以下の苦情が寄せられ、解決を図りました。

苦情事例【1】

発生日	令和5年6月22日
申立人	園児保護者
苦情内容・要望	<input checked="" type="checkbox"/> 説明・情報の不足 「はいチーズ」の連絡機能で保育所に『お迎えが遅くなる』と送信していたが、担任に伝わっていなかった。確認して欲しいとの申し出があった。
処理結果	確認したところ送信されていなかったため、申立者と共に確認し納得していただいた。また、送信方法についてもう一度説明させていただき、理解していただいた。
第三者委員の関与	解決結果を報告済み

苦情事例【2】

発生日	令和5年7月20日
申立人	園児保護者
苦情内容・要望	<input checked="" type="checkbox"/> サービスの質 保育中、同年齢の園児との玩具の取り合いにより、右手の甲を噛まれてしまっていた。咄嗟のこととは思いますが、しっかりと見守りをして欲しいとの申し出があった。
処理結果	担任が傍に付きトラブルが発生しないよう、しっかりと見守り体制を整えることと、取り合いにならないような遊びの提供をしていくことを伝え、納得していただいた。職員間で見守りの体制作りの話し合いを持った。
第三者委員の関与	解決結果を報告済み

苦情事例【3】

発生日	令和5年8月7日
申立人	園児保護者
苦情内容・要望	<input checked="" type="checkbox"/> 具体的な被害・損害 保育所で虫に刺された所が腫れている。ひどく痒がったり、掻きむしったりして傷になってしまうので刺されないようにして欲しいとの申し出があった。
処理結果	戸外で遊ぶ時は虫よけスプレーをしたり、蚊が多い時間帯は戸外遊びを控え、室内にはベープマットを準備することをお伝えし、納得していただいた。職員同士でも虫よけスプレーを忘れないように声を掛け合っていく。
第三者委員の関与	解決結果を報告済み

苦情事例【4】

発生日	令和6年2月6日
申立人	園児保護者
苦情内容・要望	<input checked="" type="checkbox"/> サービスの質 子どものお迎えに行った時、担任の先生との話が長引いた為、子どもが勝手に車を停めている所まで行ってしまった。目が届かないので心配したとの申し出があった。
処理結果	送り迎え時に保護者へ連絡がある場合は、子どもを連れて行かず、予め保護者に話をしてから子どもを受け渡す事をお伝えし納得していただいた。また、話す内容を簡潔にまとめて伝えるよう、職員間で話をした。
第三者委員の関与	解決結果を報告済み

以上